

環境ビジネスアクションプロジェクト



都内で開かれたセミナーで講演する森氏(右)

「アジア新興国水ビジネス」をテーマに都内で開かれたセミナー(主催・東京メガセミ)の最新動向と事業戦略」

アジアの少しでも多くの人達に安全でおいしい水を飲んでもらおうと、日本の中小企業などが連携し現地の地方都市や農村に簡易な水処理装置の普及を図ることで商機を見出す「命の水プロジェクト」が進行している。全国環境ビジネス企業連合会の水循環ビジネス部長を務める森一輝水工業社長兼CEOがリーダーとなり挑戦しているもので、森氏は去る2月、東京都内で開かれた水ビジネス関係のセミナー講師に招かれ同プロジェクトを紹介したほか、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開かれた「インターアシア2011 第2回国際水ソリューション総合展」にも出展し、注目された。

注目される「命の水プロジェクト」
アジアに安全でおいしい水を

環境連水循環ビジネス部会長の森氏
セミナー、展示会で紹介

「開発に関する課題の解決を目指すのがBOPビジネスであり、その市場規模は日本の実質国内総生産に匹敵する約5兆にも上ることなどを説明した。

「命の水プロジェクト」もBOPビジネスの一つであり、安全でおいしい水を提供して終わりではなく、現地の人連自らが造った水を造れるようになることで経済的な自立を図ることを目指しており、こうした水分野での貢献は国際社会における日本のプレゼンスを高めることにもつながると強調した。

また、R1については、先進国で開発されたものが世界標準となり世界に普及すると、現在米国でも販売されているという。

その上で、森氏は「この考え方は水ビジネスにも通じる。アジア諸国は人口が多いため、ローコスト、ローリターンでも数が多く出ればビジネスとなり、日本もそうした戦略が必要とされている」と指摘した。

同プロジェクトの構想では、砂ろ過などのローテクを主体とした日本の技術で簡易な水処理装置を現地で製造する。水源に地下水と雨水のどちらを選ぶかは地域ごとに異なるため、マーケティング調査により地域の実情とニーズに合った装置やシステムを作る。そして、現地企業を立ち上げ、装置のメンテナンスを含めすべて自力でマネジメントできるような現地の人連を育成することにより、ビジネスの持続可能性と雇用の創出に貢献していく考え。



インターアシアに出展したブースのパネル展示と森氏

「今後、日本を元気にするキーワードはBOPビジネスとR1。この2つの概念を実行してアジアを一つにし、皆が笑って暮らせる世界を創造して行きたい」と話す森氏の挑戦は続く。

「今後、日本を元気にするキーワードはBOPビジネスとR1。この2つの概念を実行してアジアを一つにし、皆が笑って暮らせる世界を創造して行きたい」と話す森氏の挑戦は続く。

「今後、日本を元気にするキーワードはBOPビジネスとR1。この2つの概念を実行してアジアを一つにし、皆が笑って暮らせる世界を創造して行きたい」と話す森氏の挑戦は続く。